

若年性への支援 課題

認知症

病院の 実力

* 京都編 144

今回は「認知症」を取り上げる。全国の認知症疾患医療センターと、日本老年精神医学会か日本認知症学会の専門医が在籍する医療機関について、2019年の認知症や軽度認知障害の診断数などを掲載した。

認知症は、物忘れのほか、時間や場所が分からなくなる、複雑な行為ができなくなるといった認知機能の障害により、従来の生活が送れなくなった状態を指す。

65歳未満だと若年性認知症と呼ばれる。働き盛りや子育て中の人が多く、手厚いサポートが必要だが、診断に時間がかかったり、介護サービスが受けにくかったりするものが課題だ。

最近では認知症への理解が進み、早期発見される人が増えている。認知症と正常な状態の間の軽度認知障害

病院の実力「認知症」

医療機関別2019年実績(読売新聞調べ)

医療機関名	新規患者数 (人)	患者数 うち若年性認知症 (人)	軽度認知障害 患者数 (人)	平均初診時間 (問診のみ)(分)
				(60以上)
石川県				
小松市民	101	4	13	60以上
福井県				
福井県立	550	13	—	30-45
福井赤十字	530	1	32	15-30
敦賀温泉◇	243	3	76	45-60
福井大	130	20	50	15-30
滋賀県				
滋賀医大	491	30	86	30-45
県立総合	206	2	95	—
大津赤十字	192	8	19	15-30
大津市民	91	3	5	15-30
京都府				
宇治おうばく◇	126	2	22	45-60
宇治武田	116	0	68	15-30
洛西シミズ	101	0	1	15-30
京都大	54	2	106	15-30
府立医大◇	45	1	26	15-30

◇は認知症疾患医療センター。「—」は無回答または不明。一部の診療科や外来のみ回答している場合もある。

予防に散歩など運動を

宇治武田病院 白樫・神経内科副部長

認知症の治療や予防法について、日本認知症学会認定専門医で、宇治武田病院(宇治市)の白樫義知・神経内科副部長に聞いた。

(聞き手・中田智香子)

と診断される人も少なくない。認知機能が低下し、認知症に進む場合と、正常に戻る場合がある。

認知症は、精神科や脳神経内科、老年科などで診ている。「もの忘れ外来」を設け、受診しやすくしているところもある。全国に約450か所ある認知症疾患

医療センターは、一般の医師を受け入れる。

認知症と似た症状の病気も多いため、診断は脳の画像検査なども行い、慎重に進められる。問診では、普段の様子などを家族に尋ねるところもある。周囲の人の理解・協力も欠かせない。

が「アルツハイマー型」と言われる認知症。脳梗塞などで脳の神経細胞が障害を受け「血管性」が4分の1ほどで、幻視などが特徴の「レビー小体型」、社会的ルールが守れないといった問題行動が出る「前頭側頭型」などがある。もの忘れ

宇治おうばく◇	126	2	22	45-60
宇治武田	116	0	68	15-30
洛西シミズ	101	0	1	15-30
京都大	54	2	106	15-30
府立医大◇	45	1	26	15-30

◇は認知症疾患医療センター。「—」は無回答または不明。一部の診療科や外来のみ回答している場合もある。

れの症状が出るが、「治る認知症」もある。甲状腺ホルモンの不足やビタミンの欠乏によるものなどがそう。慢性硬膜下血腫といって、頭蓋骨の内側にできた血腫で脳が圧迫されて発症する場合も、血腫を除けば改善することが多い。

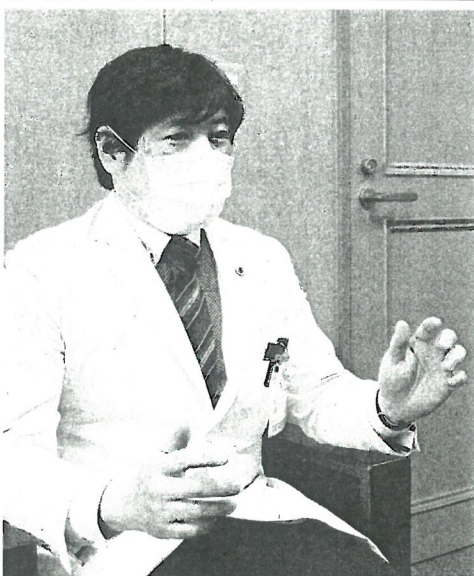
治療・療法は。

アルツハイマー型は、認可されている4種の薬を使い、進行を遅らせることができる。薬を使わない療法も様々だ。武田病院グループの京都認知症総合センター(宇治市)では、常設の「認知症カフェ」で相談員が家族や本人の困りごとに寄り添い、レクリエーションも行う。音楽療法にも取り組んでいる。最近の記憶

は失われても、童謡や「青い山脈」など昔の流行歌のメロディーは口ずさめるもので、これをきっかけに普段話さない人が歌ったり、活動性が上がったりする。

—— 予防方法やもの忘れが気になる方へ。

運動は予防に良いとされている。30分くらいの散歩を週3回ほど行うのが目安。脳からアルツハイマー型の原因になる不要なたんぱく質の排出を促すことができ、脳のダメージに影響する生活習慣病の予防にもなる。もの忘れが気になる場合は、早めにもの忘れ外来などを受診して。「人の名前が出てこない」程度は老化の範囲だが、経験したことや重要な約束を忘れてしまつのは病気の可能性がある。早期診断で治療できるものがあるし、根治できなくとも進行を遅らせることもできる。介護サービスや施設入所について、前もって方針を決められるメリットにもつながる。



「地域や家族のサポートも大切です」と話す白樫副部長(宇治市で)

全国の調査結果は20日の「安心的设计面」に掲載しました。

類があるのか。軽度の場合には判定が難しいこともあるが、半分ほど